



時 栃 報 幼

題字／栃木県知事 福田富一氏

第 147 号

令和4年3月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／堀 昌道 ●発行人／石嶋 勇

■栃幼連ホームページ <https://www.youchien.or.jp>



こどもが
まんなか
PROJECT

令和三年度を振り返って



栃幼連理事長 石嶋 勇

新型コロナウイルス感染症が世界的なパンデミックとなり私たちの社会生活に大きな影響を及ぼし、一〇〇年に一度と言われているウィルスとの闘い。その様なコロナ禍の中で私は（一社）栃木県幼稚園連合会五月通常総会に臨み理事長として十年目のスタートをきらせていただきました。

延期になっていた東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。感染症蔓延防止対策として無観客開催となりましたが、素晴らしい大会でありました。さて、コロナ禍の中でありました

が、栃幼連の事業は事務局スタッフと各委員会委員長及び先生方・それに携わるすべての皆様の献身的な努力と創意工夫により会場参加及びリモート参加いずれかを選択出来るハイブリット開催が可能となりました。

栃木県こども政策課及び市町の担当部局の指導を賜り事業を進めて参りました。その甲斐あって研修などの質の部分は担保出来たものと自負しております。

まだまだ出口が見えず、新型コロナウイルス感染症の猛威は払拭されず経済にも大きく影響しております。

す。国内でのワクチン接種が開始され現在では二回接種者は国民全体の七〇パーセントに達しています。しかし変異株オミクロンにより感染者が再び急増。その為に三回目の接種が行われています。

結びになります。衆議院総選挙において栃幼連が支援しました候補者全員が当選を果たすことができました。ありがとうございました。

令和三年度を振り返って



こども政策課長 田中島 浩子

各園の皆様におかれましては、日頃より県の子ども・子育て支援施策の推進や新型コロナウイルス感染症の拡大防止等に御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

今年度も教育・保育の現場では新型コロナウイルスとの闘いが続きました。夏場の感染拡大により再度の緊急事態宣言が発令され、これまで感染しにくいとされていた園児の感染や教育・保育施設におけるクラスターも散発しました。また、全国的に最大の感染拡大となった今冬の第

六波では、教育・保育施設の休校・休園が社会問題となり、代替保育のあり方や業務継続計画（BCP）の策定等の課題が顕在化しました。二年以上もの長期にわたり感染症対策を余儀なくされる中、教育・保育の現場の皆様には、子どもたちの健やかな学びの保障や保護者の多様なニーズに応えるため、休むことなく職責を果たしていただいていることに改めて感謝申し上げます。

さて、県では「とちぎ子ども・子育て支援プラン（二期計画）」に基づき、県民が安心して子どもを生み、育てることができ、子どもが健やかに成長することができる地域社会の実現を目指し、各種施策を推進しております。

令和四年度からは幼稚園運営費補助金の補助単価（県単上乗せ分）を六、〇〇〇円から八、〇〇〇円に増額するほか、引き続き子育て世帯の多様なニーズを把握しながら、支援の充実に努めて参ります。

今後とも、市町との連携はもとより、オール栃木体制で子育て支援を着実に進めて参りますので、貴連合会及び幼稚園、認定こども園の皆様との更なる御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束と子どもたちが元気にのびのびと活動できる日の到来を祈念し、令和三年度の振り返りといったします。

第68回 分科会報告

令和三年八月十八日～二十日にかけて実施する予定だった県大会・分科会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から一部を除く分科会は延期となった。十五の分科会のうち、残りの十三の分科会をすべてリモート（Zoom）による配信に切替え、昨年の十月から、助言者・話題提起者・コーディネーターに加え運営責任者の方々からのご協力を得て、本年二月までに無事実施することができた。開催にあたりご協力をいただいた多くの方々改めて御礼申し上げます。本号では残りの分科会の模様をページ数を増やし掲載することにした。

第十四分科会

期日

令和四年一月十一日(火)

テーマ

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（十の姿）」を踏まえた保育実践

助言者

栃木県幼児教育センター

副主幹 前原 由紀 先生

コーディネーター

認定こども園呑竜幼稚園

教頭 大島絵理子 先生

話題提起者

認定こども園あかみ幼稚園

保育指導主任 館野ひろみ 先生

佐野みのり幼稚園

教諭 青木江梨子 先生

第十四分科会では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置きながら、環境構成や援助の仕方、日々の保育の中の「小さな見直し」の大切さについて、オンラインのグループワークを行いながら考察を深めた。

話題提起者の館野先生からは『5歳児の主体的に取り組んでいる遊びから「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を読み取る』、ぴんぴょん力エルを飛ばそうの事例から』と題した話題提起があり、教師が丁寧に準備した仕掛けによって、子どもたちの気づきや工夫が生み出される様子が紹介された。

青木先生からは『活動「水族館を作ろう」に見られる幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』と題して、これまで積み重ねてきた園児の成長とともに、次々とバージョンアップしていく活動の面白さが紹介された。

助言者の前原先生は、話題提起された内容に結びつけながら、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を以下のよう振り返った。



- ・到達目標ではなく方向目標であること。
- ・個別に取り出したり評価の観点にしたりしないこと。
- ・全ての子どもが一緒に育つものではないこと。

・三歳、四歳とその時期にふさわしい経験を積み重ねることが重要であること。

・十の姿の観点とともに、子どもたちが成長してきた姿を、しっかりと小学校へと伝えて行くこと。

さらに、園内研修にも活用できるような「十の姿」の読み解き方が解説された。

私たちが日々行なっている幼児の見守りや、育ちを捉える際の観点について、なかなか小学校に接続されにくい現状を踏まえ、今後の連携への提案も行われた。

受講者からは、一つの活動の中にも、個々のあそびの中にも十の姿が存在していることへの気づきがあったことや、いかに小学校に伝えようかという新たな課題を抱く声が届いた。

第68回県大会 第14分科会



第九分科会

期日

令和三年十二月十日(金)

テーマ

「食育」園でできること」

助言者

宇都宮文星短期大学

教授 湯澤 敏子 先生

コーディネーター

認定こども園鹿沼ひかり幼稚園

副園長 齋藤久美子 先生

話題提起者

晃望台幼稚園

教諭 田野井綾子 先生

認定こども園鹿沼ひかり幼稚園

保育教諭 塚原 彩未 先生

第68回県大会 第9分科会



第十二分科会

期日

令和三年十二月十八日(土)

テーマ

「明日から使える子どもを惹きつける遊び」

助言者

認定こども園すみれ幼稚園

園長 岡本 純世 先生

認定こども園くにや幼稚園

教頭 栗原 賢臣 先生

コーディネーター

晃望台幼稚園

副園長 青柳 貴也 先生



第68回県大会
第13分科会

期日 令和四年一月十八日(木)

テーマ 「乳幼児、心の発達よりよい心の発達のために」

助言者 白百合女子大学 准教授 眞榮城 和美 先生

コーディネーター 認定こども園梅ヶ原幼稚園 副園長 花岡 宏樹 先生



第68回県大会
第12分科会

話題提起者

認定こども園愛泉幼稚園

保育教諭 星 真希 先生

認定こども園のぶしま幼稚園

保育教諭 戸田 実季 先生

第五分科会

期日

令和四年一月十九日(木)

テーマ

「特別支援教育の理解～基礎編～」

助言者

宇都宮共和国大学

教授 土沢 薫 先生

コーディネーター

認定こども園黒羽幼稚園

園長 栗田 英子 先生

話題提起者

那須みふじ幼稚園

主任教諭 上吉原里恵 先生

すぎのこ三島幼稚園

教諭 竹村さやか 先生



第六分科会

期日

令和四年一月十九日(木)

テーマ

「人と関わる力を育てる～友達に親しみ、一緒に活動する楽しさを味わうために～」

助言者

大阪総合保育大学

特任教授 神長美津子 先生

コーディネーター

認定こども園やすづか幼稚園

副園長 大久保智子 先生

話題提起者

認定こども園アルス幼稚園

保育教諭 宇賀 望 先生

たちばな幼稚園

教諭 千葉 隆宏 先生



第68回県大会
第6分科会

第十五分科会

期日

令和四年一月三十一日(月)

テーマ

「園行事を考える」

助言者

玉川大学 教授 若月 芳浩 先生

コーディネーター

認定こども園今市中央幼稚園

理事長 大嶋 裕 先生



第15分科会

第一分科会

期日

令和四年二月一日(木)

テーマ

「乳幼児期からの人権教育を考える」

助言者

宇都宮大学准教授 良 香織 先生

コーディネーター

みふみ認定こども園

副園長 石戸奈緒美 先生

話題提起者

にじいろ i-RU 田中一歩 先生



研修会だより

設置者・園長研修会

期日 令和四年一月二十一日(金)

会場 ホテルニューイタヤ
(太平の間)

参加 八十六名
(うちリモート参加 六十一名)

研修一

演題 「指導監査等の結果概要について」

講師 栃木県保健福祉部指導監査課
子育て事業担当

副主幹 森田 義人氏

一 指導監査等について

令和元年度までは、こども政策課・各健康福祉センターが監査を担当していたが、令和二年度からは指導監査課が行なうこととなった。



二 主な指導事項について

幼稚園・認定こども園において、同じような指導事項が目立ったため注意いただきたいと助言がなされた。

①園児の健康診断、職員の健康診断において未実施の項目がある。環境衛生検査において、実施していない、未実施の項目がある。

②自己評価が行われていない、自己評価の結果を公表していない。

③学校保健計画、学校安全計画を策定していない。

④認定こども園において、運営規程を作成していない、園舎に関する変更届出が提出されていない。

各指導項目においては、学校保健安全法や、学校教育法などの法律において定

められている。法令順守が叫ばれている昨今において、法令違反とならないように日頃から注意して運営していかねばならない。

三 安全管理について

重大事故が発生しやすい場面ごとの注意事項や、事故が発生した場合の対応などがガイドラインとしてまとめられているため、子どもたちが安全に園生活を送るためにも、設置者の責務として必要な措置を講ずる必要がある。

最近の事案としては、送迎バスに子どもが取り残されて亡くなってしまった事件や、不審者の侵入で子どもたちが危険にさらされた事件が取り上げられた。

また、非常災害対策、要配慮者利用施設における避難体制等について説明がなされた。異常気象による川の増水、地震などの各種災害において、子どもたちを守るためにも、危機管理マニュアルの策定、避難確保計画の作成が大切になり、日頃からの訓練がとても大切になってくるとの認識を示した。

研修一

演題 「栃木県幼児教育センター事業について」

講師 幼児教育センター
センター長 堀江 賢氏

はじめに、令和三年度幼児教育センター調査研究の紹介があった。



今年度は、幼稚園等における学校評価の進め方「栃木県の幼稚園・認定こども園の学校評価に関する実態調査」をもとに、学校評価の実施率、自己評価は八十八%、学校関係者評価は五十五%、第三者評価は四%であった。

学校評価は効果があるとの認識が自己評価、学校関係者評価ともに九十%を上

回り、園の課題の共有、教職員の参画意識の向上、保育内容の充実、教職員の連携協力に役立つ結果が示された。

自己評価の現状、何をもとに実施していますかでは、教職員による評価チェックシート等が一つ多く、どのように活用しているかでは、職員会議等で改善の手立てについて話し合う機会を設けたが最も多かった。

学校関係者評価の現状、何をもとに実施していますかでは、園行事や保育の参観の機会に行うが一つ多く、どのように活用していますかでは、改善のための具体的な取り組みに生かしたが最も多かった。

学校評価の課題・困難さについては、自己評価の場合、評価項目の立て方、重点項目の立て方に難しさを感じ、学校関係者評価では、評価項目や評価指標の設定、評価委員の選定に課題があることが判明した。

学校評価の全体像がイメージできるように年度末にQ&Aを配布するとの報告がある。

令和四年度 幼児教育センター研修については、次の三つの項目に分けて紹介された。

一、幼少連携に関する研修

合同研修

幼・こ・保は年長児担当者、小学校は学年を問わず各学校一名、令和四年度からオンライン実施

幼小接続推進者研修

市町教育委員会、保育主管課より選定された幼・こ・保・小の教職員が受講

教育課程研究集会(幼児教育)

三日間の研修で、幼稚園等の教育



課程の編成及び実施に伴う指導上の諸課題等について理解を深める。主任級の先生を養成する場としても活用できる。

二、スキル等に関する研修

トッパセミナーⅠ(〇・五日)

幼児教育の原理や内容についての理解トッパセミナーⅡ(〇・五日)

幼児教育の今日的課題を分析、マネジメントに生かす

幼児期の特別支援教育研修(二日)

障害のある子どもなどの保育の在り方について理解を深め、指導力の向上を図る

スキルアップセミナーⅠ(一日)

幼児期の個別の指導計画の在り方について理解し、計画の作成力と活用力の向上を図る

スキルアップセミナーⅡ(一日)

幼児理解に基づく評価の在り方と要録の役割について理解し、幼児の発達と学びをつなぐ要録を作成する力の向上を図る

三、ステージごとの研修

新規採用幼稚園教諭等研修(九日(集合研修))

教諭・保育教諭としての職務の遂行に必要な基本的な事項について研修を行い、実践的指導力及び使命感等、幅広い見識を養う

幼稚園等教職五年目研修(二・五日)

教職五年目の段階に即応した教員に関する知識・技能を身に付け、組織の一員としての自覚と保育の実践的指導力の向上を図る

中堅幼稚園教諭等資質向上研修(六日)

幼稚園等における教育に関し相当の経験を有し、その教育活動その他の学校運営の円滑かつ効果的な実施において中核的な役割を果たすことが期待される中堅教諭等としての職務を遂行する上で必要とされる資質の向上を図る

研修三

演題 「出会いの人生から学んだこと」

講師 弁護士 菊地 幸夫氏

●話のはじめは！

「大学の1・2年は教職をとっていましたが」「もしかしただら皆様と同じだったかも」

ただ、法学部ということで、3年からは流れに乗って法律関係の道に進んだことが今につながっている。

●現役の弁護士です！

・ちゃんと仕事をしています。

実際に、日々裁判にも関わっている「現役の弁護士です」という言葉に、改めて襟を正して聴き直した。

●バレーボールクラブの監督です。

・他から見れば行儀が悪いチームかもしれません。

月曜日から金曜日までがオンだとすれば、週末は電源オフで、週一回のチームの練習に楽しく汗を流すという流れを二十年ほど続けている。

時には、他のチームを見ることで、指導者のあり方や練習のやり方について考えてしまうこともあるが、チームの子どもたちは、自分の思いをきちんと伝えながら、次への期待感で過ごしている。

●司法修習生を指導しました。

「今の学生は！」と言っているといけないが、問題と答えしか興味のない学生が多い。途中のプロセスに興味がないため、考えて答えを出そうとしない。

社会人になったら「荒波も自分で考え乗り越えていかなくてはいいけない」のに、なかなかうまくいかないようだ。

●子育て方法の大転換がありました。

・お嬢さんの部屋に入っているんですか？プライバシー侵害です

自分の父親はとても厳しかった。時に



は嫌な思いもしたが、その育て方に疑問はなかったし、自分が親になっても同じように厳しくしつけていた。たどうまくいっていなかった。

宴会の席で、子育てについて愚痴る機会があった時に秘書から言われた言葉で気がついた。「何をしていたんだ。自分の子どもといえど一人の人間だ。これではいけない。」

無理を言わなくなった。自分のことだけしっかりとした姿を見せた。

自分の対応が変わった時、子どもたちの動き方も変わっていった。今まで避けられるばかりだったのに、子ども達から近づいてきた。自分の背中を見てくれたようだ。その関係は今も続いている。

●改めてバレーボールチームの話

・教え方バレーボールを増やすことは、自分の成長にも繋がる。

・指導者の言葉にもいろいろあるが、指導を受ける本人が理解できる言葉を与えられるのが重要！

自分自身が走り方の指導を受けたことがあった。その際、あるコーチの感覚的な言葉（抽象的？）では理解できなかったが、別のコーチの自分の身に置き換えられるわかりやすい言葉（具体的？）をもらった時に成長を感じることができた。バレーボールの場合にも精神論のような言葉で、その子どもに考えさせる機会を作らずに返事だけを強要しては、伸びるものも伸びないと思っ

※実は全日本〇〇協会で、苦情処理の立場にもある。

少なくとも自分のチームの子はそれぞれに考えて言葉を発し、内容を理解して次に進んでいるため、誰もが自主的に練習に参加し楽しんでいると自負している。

言葉で「何か」を飲み込ませるのはとても難しい。言葉を並べればいいわけでもなく、伝え方に工夫が必要で、その工

夫より伝わるし、伝えた自分も変わる事ができる。そんな出会いがたくさん経験できればいい。

実は明日の練習で新しく参加する子がいる（はず！）。また新しい出会いを大切にしたい。

皆様方も

未来を背負って立つ子どもたちと

ますます楽しく過ごして下さい。

＊メモ

テレビにも出ている有名人とい

う一方で、マラソンやトライアスロンでも度々映像でお見かけする方がお話をしていただけというところで、内容が堅いものなのか、それとも柔和な感じなのかと興味を持っていたが、実際の話はとてもわかりやすくかつ身近なもので、あつという間の一時半だった。実は法律の話もたくさん出てくるのかと構えた部分もあったため、やや拍子抜けといった感じもなかったわけではないが、演題から考えれば、至極当然の話の流れで、改めて納得！と舌を巻くほどである。

人として、親として参考になる部分が多く、ご本人はあまり主張はしていないが、教職を取ろうとした経緯からか、「指導」といった面からも、保育に関わる身として参考になることも多かったため、最後に伝えていただいたメッセージを大切に、ぜひ「今後の日々の出会い」にも関わり方を工夫していきたいものである。

令和三年度 第三回セオリィ講座

期日 令和三年十二月十五日(水)

会場 ホテルニューイタヤ

(天平の間)

参加

テーマ

講師

講師

幼小連携「年長さんて、どうやって一年生になるの」

栃木県幼児教育センター

副主幹 前原由紀氏

栃木県幼児教育センター



に、就学後の子ども達が遭遇する、園と学校での学び

を語ってくれた。保護者から就学先の変更を聞くこともあるが、得心のあった先生もいたであろう。最後に、就学後の子ども達が遭遇する、園と学校での学び

指導主事 天川有紀氏
年の瀬も迫る十二月半ば、第三回セオリィ講座が開催された。今回は教育研究委員の一つの疑問として、小学校との接続とはどのようなことかというテーマから本研修が設けられた。講師には栃木県幼児教育センターのお二方を招き、話を聞いた。

まずは、小学校での教員の経験もある、指導主事の天川氏。前置きとして、市町によって対応や実施内容に違いがあるものの、自身の経験を踏まえ、園と小学校とのやり取りについて語っていただくこととなった。その基礎として、教育・保育要領等の幼児期の学びから小学校へ向けて育ってほしい姿とは何かを、小学校からの目線も含め改めて示し、その上で園生活で培われるものが小学校ではどう繋がっていくかを話していただいた。これは、要録等で引き継がれる小学校の教員でなくては分からないことであり、特に年長の先生方が気になる点であろう。そしてその引き継ぎにおいては、就学時健診や就学先の決定等についての説明があった。こちらは各市町の教育委員会によるものとのことだが、これもやはり園からは分からないことの





の違いから生じる「段差」をいかに小さくするかは、園から学校への教育に対して連続性・一貫性を持つことが大切であり、その尊重すべき違いを踏まえて保育を行っていくことが大切だと締めくくられた。

代わって前川氏からは辛辣な話が。園の保育は少々画一的、受動的ではないかという。折しも発表会の時期、教え込む保育をしていないかと。実際、教えられて覚えるものであるが、その中でも主体性のある保育を行うことが重要であると話す。教育・保育要領はもとより、小学校学習指導要領にも主体的な学びが大切と記されていることと。



と、そしてその学びは小学校の先、中学、高校と続くことであり、幼児期からの主体的な学びを実践してほしいと説き、終了となった。

これからの時代を担う子ども達に、保育の質も大切だが、その保育を与えるだけでなく、自ら主体的に学ぶ子どもを育てることが重要であることを、小学校との接続という観点からも考えさせられる研修となった。

第二回保育テクニカル講座

期日 令和四年一月十二日(木)

会場 コンセーレ (大ホール)

参加 九十七名

テーマ 「楽しい運動遊び～みんなで楽しく体力づくりをしよう～」

講師

宇都宮共和国大学 子ども生活学部 学部長・教授 河田 隆 先生

司会者から講師の紹介があり、研修が始まった。



現代社会の子どもは、運動をする機会が減少したことにより、体力・運動能力の向上が阻害され、様々な問題の原因にもなっている。これを解決するために、主体的に体を動かす遊びを中心とした身体活動を幼児期から生活全体に確保していくことが大きな課題である。体育という難しく考えがちだが、体育とスポーツは別物であり、体育は、子どもにとっては「身体活動遊び」であり、身近なものと捉えてほしいとのことだ。

体操とは、「からだをあやつる」と書くが、私たちは「体操」と聞くと、ラジ体操とオリンピックの体操競技を思い浮かべる。しかし、それは体操領域の一部であり、体操とは、私たちがひとり一人の日常生活を豊かにするための運動で、体を思うように操ることができるようになることは、よく動ける体を持つことになることになり、自分自身にとって貴重な財産となる。

正しい姿勢はすべての生活の中で大切なことであり、それは、立位姿勢・座位姿勢・臥位姿勢だが、これを良く身につけられるのがラジ体操とのことだ。参加者全員で、ラジ体操を行った。しかし、これは姿勢を保つ訓練には良いが楽しくない。そこで、音楽を取り入れた楽しいリズム体操(駆け足体操)を行った。続いて、体操はダンスと違って可動範囲が広く、元氣よく行うものであるとのことから、ダ



ンスに体操の要素を取り入れたものとして、動物のまね(模倣)をする体操を教えていただいた。

子どもには筋力をつけるのではなく、調整力(敏捷性・平均性・巧緻性)をつけることが大切とのことだ、それが身に付く運動遊びやレクリエーション遊びを教えていただいた。

休憩を挟んで、後半が始まった。

楽しく遊ぶためには工夫が必要であるが、より楽しく遊ぶためには一人より二人の方が楽しいので、二人一組になっての運動遊びをしたところ、大変楽しく盛り上がった。運動に限らず、出来ることは良いことだが、出来なかったことから学ぶことは多いので、そこを保育者がいかにフォローするかが大切だと教えていただいた。最後に、道具を使うと楽しさが増す新聞紙を使っているような運動遊びを教えていただいた。

運動遊びで大切なのは、姿勢と正確な動きであり、ダンスと違うのは、表現するということよりは、体を展開させ動かす、きちんと伸ばすということであるとのことだ。

運動遊びの基本と、より楽しく行う方法を学ぶことができ、大変有意義な研修となった。

資質向上研修⑤

期日 令和四年一月二十日(木)

会場 コンセーレ (アイリスホール)

参加 八十八名

内容 「うちリモート参加 八十三名」 「幼小接続期の力キキュラムを見直す」 幼児期の学びを小学校教育に生かすために」

コーディネーター

栃木県幼児教育センター

副主幹 高根沢伸友氏

発表者

鹿沼市教育委員会事務局学校教育課

副主幹・指導主事 吉江 紫氏
認定こども園に神堂幼稚園
主幹教諭 守屋和美氏

指導助言者

栃木県教育委員会事務局上野賀教育事務所 学校支援課 副主幹 増田美紀子氏

と、幼児と児童の交流活動や幼小の教職員の意見交換等の取組はある程度実施されているとともに、ほとんどの地方公共団体で幼小接続の重要性が認識されている。しかしその一方で、地方公共団体や各学校・施設(幼稚園・保育所・認定こども園と小学校)の幼小接続のための取組は十分に実施されているとは言えない状況であるという。その理由に挙げられるものとしては、「接続関係を具体的にすることが難しい」、「幼小の教育の違いについて十分に理解・意識していない」、「接続した教育課程の編成に積極的ではない」等が挙げられる。



また、幼児期は、遊びを通して総合的に学んでいき、時間の区切りが緩やかな生活を送るが、小学校は各教科等の学習内容を系統的に学んでいき、時間で区切られた生活を送る。この就学を境にした子どもの状況を捉え、円滑な小学校生活に移行できるように、科学的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定を行う工夫がスタートカリキュラムである。

スタートカリキュラムは、国が一律に示している



ものではなく、各小学校が編成するものである。編成するにあたって大切なことは、幼児期の教育と小学校教育を接続するに当たり、どちらか一方が他方に合わせるのではなく、それぞれの発達段階を踏まえて教育活動を充実させるということである。

また、幼稚園・保育所・認定こども園においても幼小接続を見据えたカリキュラムの編成や見直しは重要である。しかし、見直しを行っている園は決して多くないという。

そこで鹿沼市では「幼小ジョイントプロジェクト」を立ち上げ、モデル校として鹿沼市立菊沢東小学校と認定こども園仁神堂幼稚園が取り組み実践を発表している。

鹿沼市では、すべての小学校においてスタートカリキュラムが編成されているが、形骸化しているものも散見されるという。そこでこのプロジェクトを通して、市内全小学校のスタートカリキュラムを幼児教育と小学校教育の両方の視点で見直すことにより、「子ども観」「教育観」の相互理解を深め、教育・保育の質の向上を図った。

プロジェクトの成果としては、小学校への期待感・安心感・憧れの気持ち・親近感・新しい環境の中でも困り感なくできる、その子なりの自己発揮・子ども達への見方の意識の変化・感覚的だったものが具体的実践的になった・スタートカリキュラムの見直しの視点が明らかにになった等と、より良い幼小接続に繋がった。

文部科学省の調査結果のように、幼小接続の重要性とそのため具体的な取組みに頭を悩ませている園や自治体は少なくないだろう。幼児期の学びを小学校教育に生かすことができるよう、当事者意識を持って幼小接続を考えていくことが何よりも大切なことである。

第三回 〇・一・二歳児研修

令和四年一月二十八日(金)

会場 コンセーレ(アイリスホール)

参加 百二名

(うちリモート参加 九十七名)

テーマ 「〇・一・二歳児の保護者支援」

講師 恵泉女学園大学人間社会学部

准教授 丸橋亮子先生



メモ

今回の研修では、保護者との連携・日々の具体的な支援について(連絡帳、面談、相談など)・保護者を支える保育者の役割を学んだ。保護者との共感・保育教諭等が保護者との連携や交流を通して、子どもへの愛情

や成長を喜び気持ちを共感し合うことにより、保護者は子育てへの意欲や自信を膨らませることができる。園児の保護者とのコミュニケーションにおいても、地域の子育て家庭への支援の場においても、子育てに不安や負担感を感じている保護者が、子ども成長する姿に心動かし、成長を喜び中で、子育てを楽しんでいることが出来るような幼稚園・認定こども園や保育教諭等の働き掛け、環境づくりが望まれる。また、子育ての支援の取組として、子どもの利益を最優先とすることが大切である。子どもの育ちを家庭と連携して支援することで、保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上や教育

及び保育の基本及び目標、子どもの最善の利益を踏まえ、子どもの存在そのものを尊重し、子どもの立場に立つ支援・保護者とともに子どもの安定し

子どもの安定し



設置者・園長経営研修会

令和四年二月十七日(木)

会場 ホテルニユーイタヤ(校の間)

参加 五十二名

(うちリモート参加 四十名)

テーマ SDGsについて

講師

宇都宮市総合政策部政策審議室
計画行政グループ

主事 吉田英里子氏

た関係や保護者の養育力の向上に寄与するため「子どもと保護者との関係、保護者同士の関係、地域と子どもや保護者との関係を把握し、それらの関係性を高める。教育及び保育の内容と有機的な連携を図りながら取り組む事が重要である。以下、子育ての支援全般に関わる事項として、

一 保護者に対する子育ての支援を行う際には、各地域や家庭の実態等を踏まえ、相互の信頼関係を基本に、保護者の自己決定を尊重すること。

二 教育及び保育並びに子育ての支援に関する知識や技術など、保育教諭等の専門性や、園児が常に存在する環境など、幼保連携型認定こども園の特性を生かし、保護者が子どもの成長に気付き子育ての喜びを感じられるように努めること。

三 保護者に対する子育ての支援における地域の関係機関等との連携及び協働を図り、園全体の体制構築に努めること。

四 子どもの利益に反しない限りにおいて、保護者や子どものプライバシーを保護し、知り得た事柄の秘密を保持すること。

以上のように多様な人と出会う園での支援であるが、子どもの最善の利益になるよう、保護者との関わりや支援の重要性を再確認した研修であった。

メモ

本日は、SDGsについてお話をいただくのだが、最初に宇都宮市がどのような街で、SDGsにどのように取り組んでいるかを説明頂いた。



宇都宮市は、都市からも適度な距離にあり交通の便、立地にも恵まれている。他の都市と同様、少子高齢化は進んでおり対策が必要である。そのため宇都宮市では第六次宇都宮市総合計画として、二〇五〇年までに未来を見据えた街づくりに取り組んでいる。社会、経済、環境が融合した全国モデルとなる街づくりをすることによってSDGsの達成にも貢献する。持続可能な街づくりとして、自家用車に頼らず公共交通の充実を図り、誰もが生活しやすいコンパクトシティを目指す。小売り電気事業による収益によって、市内の再生可能エネルギー設備の拡大など、地域課題の解決を図る地域還元事業を実施する。また、市民、企業とともにSDGsの啓発活動にも取り組んでいる。

この後、そもそもSDGsとは何かということでお話いただいた。SDGsとは、持続可能な開発目標、簡単に言うとずっと地球に住み続けられるための世界みんなの目標。具体的には、環境、社会、経済を世界中の人々が協力、助け合って課題に取り組んでいく必要がある。なぜなら、人々が今の生活をするためには、地球の資源が不足してしまうからだ。



SDGsとは、他人ごとではなく、我々一人一人が考え、取り組まなければならない課題である。



令和4年度私立幼稚園関係予算案

(単位：千円)

事業名	令和3年度 予算額	令和4年度 予算額(案)	概要
1 幼稚園運営費補助金	1,416,085	1,283,899	学校法人が設置する幼稚園の運営費に対する助成 園児1人当たり202,800円(R3 198,600円) 3～5歳 5,520人 満3歳 761人 一種免許状加算分 2,174千円 処遇改善加算分 7,938千円
2 幼稚園教材費等補助金	822	0	個人及び宗教法人が設置する幼稚園の教材費等経費に対する助成
3 地域子育て推進事業費補助金	137,660	130,750	
(1) 子育てランド事業	22,580	21,590	私立幼稚園及び認定こども園が実施する子育て支援事業に対する助成 A 2事業実施かつ市町補助130千円以上 1園当たり 130千円 B 3事業以上実施かつ市町補助200千円以上 1園当たり 200千円
(2) わんぱく保育推進事業	115,080	109,160	私立幼稚園及び認定こども園が行う預かり保育事業に対する助成 ○通常分 1園当たり 800千円、1,200千円、1,600千円 ○特定分(4時間超) 1園当たり 160千円、280千円、400千円 ○長期休業分 1園当たり 160千円、280千円、400千円 ○休業日分 1園当たり 300千円、480千円、660千円
4 栃木県私立幼稚園振興財団補助金	246,425	262,214	私立幼稚園及び幼保連携型認定こども園の教職員の退職金給付事業に要する経費に対する助成 ・補助率 → 教職員標準給与額の29/1000
5 特別支援教育費補助金	455,896	478,632	特別支援を要する園児が就園する私立幼稚園及び認定こども園に対し、その経費の一部を助成 学法 784千円/人(国庫、県単) 学法以外 392千円/人(県単)
6 私立学校教職員共済補助金	161,222	169,010	長期掛金について、標準給与額の8/1000を補助(R2同率)
7 栃木県私学団体補助金	6,000	6,000	栃幼連が行う研修事業に要する経費に対する助成 ・補助率 定額(1/2以内)
8 幼稚園耐震化事業費	344,846	0	認定こども園への移行を予定している私立幼稚園の耐震化事業に対する補助 ・補助率 1/2
9 幼稚園緊急環境整備事業費	150,511	103,009	○学校法人立幼稚園及び認定こども園が行う遊具等環境整備に対する助成 ・補助率 認定こども園 1/2、左記以外幼稚園 1/3 ○新型コロナウイルス感染症対策に対する助成(幼稚園及び幼稚園型認定こども園) ・補助率 10/10 ○認定こども園等における研修支援 ・補助率 1/2 ○認定こども園等への移行支援 ・補助率 1/2 ○園務改善のためのICT化支援(幼稚園及び幼稚園型認定こども園) ・補助率 3/4
10 子どものための教育・保育給付費	11,590,000	12,118,927	施設型給付等に係る市町への負担金及び補助金 ・県負担割合 全国統一費用部分 1/4 (1号園児は地方単独費用部分1/2あり)
11 一時預かり事業	260,551	249,254	一時預かり事業を実施する市町に対する助成 ・県補助率 1/3
12 認定こども園整備事業	743,694	705,395	認定こども園の幼稚園部分の施設整備事業を実施する市町に対する補助 ・県補助率 1/2
13 第3子以降保育料等免除事業費	490,863	515,404	第3子以降の未就学児の保育料等免除事業を実施する市町に対する助成 ・対象 3号認定こども(保育料)、1号・2号認定こども・未移行園児(副食費) ・県補助率 1/2
14 子育てのための施設等利用給付費	681,197	609,678	私立幼稚園(私学助成)等の利用料無償化に係る市町への負担金
15 授業目的公衆送信補償金助成費	467	400	私立幼稚園におけるICT教育を円滑に行うための「授業目的公衆送信補償金制度」の活用に対する助成
計	16,685,772	16,685,772	

08

令和4年度予算案の内容について

令和4年度に向け、栃幼連として要望した6項目については前号でお知らせ致しました。中でも今回強くお願いをした1の幼稚園運営費補助金について、園児1人当たりの県単補助2千円アップと言う結果を得る事が出来ました。コロナ禍によって経済活動が停滞し、県の税収が大きく落ち込む中、例え1項目であっても増額の要望が叶った事は、大きな喜びであります。

平成25年に4800円にまで下がった県単補助ですが、令和元年に6千円へ回復し、3年を経て今回8千円となりました。他県、特に北関東近隣の群馬県14500円、茨城県12780円と比べるとまだまだ伸び代を残した水準ではありますが、ともあれ増額が叶った事実を素直に喜びたいと思います。業種を問わず様々な分野で補助金が厳しく見直されている中で、異例とも言える増額。この快挙にたどり着くまでの決して平坦ではない道のりを、粘り強く柔軟に対応する執行部の並々ならぬ熱意と手腕に只々敬服するばかりです。

今回も各設置者、園長先生方はもちろん、福田知事をはじめ自民党県議の皆様のご尽力に重ねて感謝申し上げます。引き続き皆様のお力添えをいただきながら、今後も全園一丸となって振興活動を展開して参りましょう！

振興委員長 富川 将



幼児教育センターだより



昨年度に引き続き、今年度も感染症対策を施しながら、様々な形態で研修を実施しました。御協力をいただき、本当にありがとうございました。

新規採用幼稚園教諭等研修を振り返って



昨年十二月に、全日程が終了しました。最終日となる第九日には、保育映像の視聴を通じた幼児理解をもとに、日案の作成に取り組みました。保育のねらいに沿った環境の構成や保育者の援助、個への配慮等について、具体的な見通しをもって保育に臨むことの大切さについて学びました。班別の演習・協議では十一名の指導助言者のお力添えをいただき、新採者一人一人に丁寧な助言をいただきました。

研修で見る新採者の姿から、年間を通じ、保育者として、あるいは社会人として大きく成長していることを感じました。感想の一部を紹介いたします。



教師としての自覚をもち、子どもたちを育てるだけでなく、自分も育つ、学び続けるということ大切に日々精進していきたい。

一人一人の子どもに寄り添い、保護者も安心して子どもを預けられるような保育者を目指していきたい。

保育者自身が満足する保育ではなく、子どもの発達を踏まえた保育であるかを常に考え、自分の保育を見直していきたい。

ぜひ、研修の成果を今後に生かしてください。

幼小連携推進者養成研修

本研修は平成二十八年度より実施してきました。昨年度は年間を通じて中止とし、本年度は五年目の最終年度となります。



各地区から推薦された四十人の教職員が幼小でペアとなり、年間を通じて研修を進めました。今年度は、小学一年生の生活科の授業、年長児の保育の映像を視聴したり、相互に職場を体験したりしながら、それぞれのテーマに応じた幼小接続期の指導計画「ジョイントカリキュラム」を作成しました。そして最終日には、作成の過程で学んだことを発表し合いました。

受講者からは、「幼稚園だから経験させてあげられることが明確になった(幼)」「子どもが主体的に活

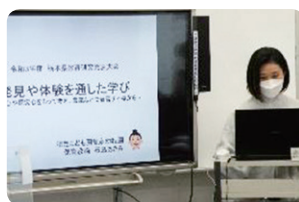
動できる場がどれだけ大切かを改めて感じた(小)」などの感想がありました。今後も各地区で幼小の連携を推進する中心的な役割を担っていただけるよう、願っています。

また次年度より、本研修の後継となる「幼小接続推進者研修」を新たに実施いたします。受講者はこれまでと同様に、関係市町から推薦された幼小の教職員となります。詳細につきましては、次年度の「幼児教育センター研修案内」(三月配布)にて改めてお知らせいたします。

柘木県教育研究発表大会 — 幼小連携部会 —

一月二十九日に、オンラインで開催しました。幼小の教職員や行政職員、学生など、七十五名の参加がありました。

幼小連携部会では「幼小接続期の質の高い教育とは」互いの教育を見通して「をテーマに、小学校、認定こども園、保育所の先生方が実践発表を行いました。



認定こども園愛泉幼稚園
石島あさみ保育教諭

参加者からは、「スタートカリキュラムの見直しを行う際に、今回の研修で感じたことを取り入れていきたい(小)」「遊びを通して体験していること、学んでいることを具体的に伝えられるようにしていきたい(幼)」「幼児期のキラキラした笑顔

を小学校でも見られるように市内の幼小連携に力を入れていきたい(行政)」などの感想がありました。この度の実践発表が、様々な面で幼小の円滑な接続が推進するための一助となることを願っています。

★お知らせとお願い★

三月九日発送

下のような封筒で送付するピヨッ!



○「令和四年度幼児教育センター研修案内」を送付します。

○リーフレット『幼児教育・保育の質』を高める園の学校評価』を作成しました。アンケートの御協力をいただき、ありがとうございました。

○「受講の記録」を送付します。

・トップセミナー「教育」

・合同研修「幼小」

・教育課程研究集会「幼児教育」

・幼小連携推進者養成研修

○次年度の「幼稚園等教職五年目研修」と「中堅幼稚園教諭等資質向上研修」の照会(文書)を送付します。お手数ですが、御報告をお願いいたします。





こども政策課だより

各種提出書類について

●運営費補助金（全体分）

補助金実績報告書の提出期限は、二〇二二年五月上旬（予定）です。

公認会計士等の監査日程の都合等により、提出期限までに二〇二一年度決算が確定しない場合であっても、仮決算の段階で県に実績報告書を提出し、決算確定後、再度提出されるようお願いいたします。

●教材費等補助金（全体分）

補助金実績報告書の提出期限は、二〇二二年五月上旬（予定）です。

●運営費補助金及び教材費等補助金特別補助（わんぱく保育推進事業・子育てランド事業）

事業実施報告書の提出期限は、わんぱく保育推進事業及び子育てランド事業ともに二〇二二年四月上旬（予定）です。

●二〇二一年度決算書及び二〇二二年予算書の提出について

二〇二一年度決算書及び二〇二二年予算書の提出期限は、二〇二二年六月三十日（木）です。決算書等（標準様式）の電子データをメールアドレス

レスがある幼稚園・認定こども園宛てに別途メールでお送りします。

●資産総額の変更登記届届

二〇二一年度決算に伴う資産総額の変更登記は、寄附行為で定める期限（五月末日又は六月末日）までに、期限後一ヶ月以内に登記届届を提出してください。

●認定こども園運営状況報告書

認定こども園法第三十条等の規定に基づき作成をお願いします。提出期限は二〇二二年五月下旬（予定）です。（園児数調査のみ五月上旬（予定）です。）

※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上、期限内の提出をお願いします。

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の徹底について

各園におかれましては、日頃から新型コロナウイルス感染症の拡大防止に御協力いただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

こども政策課からも、新型コロナウイルスに関連する国の通知など、随時最新の情報を提供して参りますので、各園におかれましては、新年度を迎えるに当たり、改めて感染防止対策を徹底していただきますようお願いいたします。

令和四年四月～六月までの事業予定

4月1日	①新規採用幼稚園教諭等研修（集合研修）
5月9日	実習の在り方特別部会
5月10日	※5年目研修
5月16日	保育テクニカル講座
5月23日	保育セオリー講座
5月24日	栃幼連定時総会（令和3年度決算総会）
5月27日	②新採研公開保育（宇大附属幼稚園）
6月8日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修
6月11日	公開保育研究会（宇大附属幼稚園）
6月15日	※教育課程研究集会
6月16日	全私幼退団協議会総会（山梨県）
6月17日	※指導助言者説明会
6月20日	0・1・2歳児研修
6月22日	設置者・園長研修会
6月23日	※幼児期の特別支援教育研修
6月29日	②新採研公開保育（宇大附属幼稚園）
	※は幼児教育センター事業

総会予告

令和四年度
栃幼連 定時総会
（令和三年度決算総会）
令和四年五月二十四日（火）
会場：コンセーレ

弔事

●真岡市

認定こども園真岡ひかり幼稚園
理事長 宇南山 照信 先生
令和四年一月十六日 逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

広報委員長として、栃幼時報の編集に携わるようになって二年。

新型コロナウイルスはデルタ株やオミクロン株に変異し、私たちを翻弄し続けている。

本来なら面白い話題を提供したいと考えていたが、実際にはそれぞれ委員会も通常通り運営出来たのはまれで、リモートを使いながら行っていたに感謝だ。そのおかげで何とか記事を書くことが出来た。

幼稚園・認定こども園に目を向けると、休園・クラス閉鎖のところも数多くあり、保護者への対応に先生方も苦慮している。

一方子どもたちは元気だ。朝一番に登園してくる子供は、池の水を割って、それを使って遊ぶのを楽しみにしている。

寒さなんてものもしない、始業時間になるまで戸外で自分の好きなことに没頭する姿は私たちに活力を与えてくれた。

子どもたちを守るとともに、先生方も守らなければならない立場にある設置者や園長先生たちはこれから卒園式、終業式が待っている。みんなで知恵を出し合って、コロナ禍にあっても思い出に残るセレモニーにしていただけなら幸いだ。

（認定こども園岩舟幼稚園 堀 昌道）